

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本新薬 小田原総合製剤工場 高生理活性固形製剤棟新築工事	階数	地上3F
建設地	小田原市桑原字中川原676-1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	20 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,200 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2016年4月13日
敷地面積	3,245 m ²	作成者	㈱大林組一級建築士事務所
建築面積	1,984 m ²	確認日	2016年4月15日
延床面積	3,659 m ²	確認者	㈱大林組一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

標準計算

- 建設
- 修繕・更新・解体
- 運用
- オンサイト
- オフサイト

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
生産工程に沿った合理的な施設計画		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
温度管理の徹底、空気質の確保	維持管理、メンテナンス性の向上	敷地内の空地、緑地の確保
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明設備の全面採用、モニタリングの実施	部材の再資源化が可能な躯体・軽鉄・仕上材を区分した工法を採用	敷地内の駐車場、駐輪場の整備による交通負荷の抑制

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される